

# ピアニスト 松本和将のペダリングセミナー(全3回)

～「コンクール後」にも音楽界でやっていける、「本当の意味でいい音楽が出来る人材」を育てるために～

## ◆第1回「導入編」 2017年 5月25日(木) 10:30～12:30

・ピアニストが子供向けの曲を弾くと・・・、そのペダルを分析しながら子供にもできるペダリングを考える。

◇ブルグミュラー:25より ◇ギロック:こどものためのアルバムなど ◇ショパン:ワルツ イ短調(遺作)

(ピティナコンペ課題曲より)モーツァルト:ソナチネ マイカパル:こもりうた グレチャニノフ:初めての舞踏会

## ◆第2回「基本編」 2017年 7月13日(木) 10:30～12:30

・足にも脱力が必要? ペダルは足のどの部分で踏む? ・ペダルは譜読みの時から付けるのか?

◇ベートーヴェン:ソナタ第8番「悲愴」 ◇ショパン:幻想即興曲、ワルツOp.64-2

◇ドビュッシー:アラベスク第1番、月の光 他

## ◆第3回「応用編」 2017年 10月12日(木) 10:30～12:30

・第2回で解説した基本的なペダルの使い方をさらに発展させて、半ば「裏技」と言ってもいいような様々なペダリングを実演。

◇バッハ:シンフォニア第11番他 ◇モーツァルト:ソナタK.545 ◇ベートーヴェン:ソナタ第17番「テンペスト」、第21番「ワルトシュタイン」

◇ショパン:子犬のワルツ、別れのワルツ、ソナタ第3番 ◇リスト:愛の夢、ソナタ短調 ◇ラヴェル:水の戯れ 他

(各回の詳細な内容は裏面をご覧ください)



### 松本和将 Kazumasa Matsumoto (ピアノ)

幼い頃よりピアノに目覚め、高校在学中に「ホロヴィッツ国際ピアノコンクール」第3位など、国内外のコンクールで上位入賞。また、ジュニアオーケストラでのヴァイオリン演奏やバンド活動等で音楽の世界を広げた。1998年19歳で「第67回日本音楽コンクール」優勝。併せて増沢賞はじめ、全賞を受賞。1999年より、国内外での活発な演奏活動を開始。

2001年「フゾーニ国際ピアノコンクール(イタリア)」第4位。2003年 世界三大コンクールの一つ「エリーザベト王妃国際音楽コンクール(ベルギー)」第5位入賞。東京芸大在学中にベルリン芸大に留学し、ドイツで5年間の研鑽を積む。レパートリーはベートーヴェン・ブラームスなどのドイツ物から、ショパン、ロシア音楽までを網羅し、ソロ、オーケストラ共演、室内楽、多彩な輝きを放ち続けるピアニストとして、観客はもちろん、世界中の演奏家達からも注目を集めている。これまでにブラハ交響楽団、ブラハフィル、ベルギー国立オーケストラ、読売日響、日本フィル、新日本フィル、東京交響楽団、東京フィルなど、多くのオーケストラと共演。世界的指揮者の小林研一郎、飯森範親、広上淳一他とも共演している。室内楽では、ベルリン四重奏団、イザベル・ファウスト(Vn.)、前橋汀子(Vn.)、宮本文昭(Ob.)、趙静(Vc.)、漆原啓子(Vn.)、渡辺玲子(Vn.)、中嶋彰子(Sop.)との共演が好評を博す。他ジャンルとの交流も積極的で、ジャズピアニストの塩谷哲(pf)、朗読の松平定知、和太鼓の山部泰嗣とは定期的に共演をしている。2010年より上里はな子、向井航とピアノトリオを結成し、2012年には東京、京都、広島を始めとする6都市で全国ツアーを行う。2016年9月には齊藤一郎指揮京都フィルとベートーヴェン:三重協奏曲を共演。これまでに17枚のCDをリリース。ビクターエンターテインメントからの「後期ロマン派名曲集」はレコード芸術で特選盤に選ばれる。2009年より「松本和将ライヴシリーズ」でコンサートでの臨場感をそのまま録音する試みを始め、3枚のショパンアルバム、「月光」「熱情」「テンペスト」「子供の情景」などのドイツ作品中心のアルバムをリリース。また2014年3月・6月には相次いでトリオ「チャイコフスキー:『偉大なる芸術家の思い出に』」、上里はな子とのデュオ「フランク、グリーグ:ヴァイオリンソナタ」もリリース、大きな話題となった。

東京芸術大学非常勤講師(2008～2012)、くらしき作陽大学特任准教授として、後進の指導にもあたっている。また上里はな子、向井航らとともに全国でも類を見ない室内楽専門のマスタークラス「カンマームジークアカデミー in 呉」を立ち上げ、日本の室内楽のレベルアップにも取り組んでいる。

谷口厚子、芦田田鶴子、故中島和彦、角野裕、御木本澄子、バスカル・ドヴァイヨンに師事。岡山県芸術特別顕賞、倉敷市芸術文化栄誉章、福武文化奨励賞、マルセン文化賞、エネルギー音楽賞受賞。公式HP:<http://www.kaz-matsumoto.com>

受講料/ 会員 2500 円 (音研会・カワイメンバーズ・PTNA) ・ 一般 3000 円

会場/ カワイ梅田 コンサートサロン「ジュエ」

※楽譜は当日会場にて販売致します。

お申込み先/カワイ梅田 〒530-0001 大阪市北区梅田 1-1-3 大阪駅前第3ビル1F  
TEL:06-6345-8300 FAX:06-6345-8863 E-mail:umeda-shop@kawai.co.jp



..... きりとり .....

松本和将ペダリングセミナー □第1回 5/25 □第2回 7/13 □第3回 10/12 ←チェックをお入れ下さい。

お名前	□一般・□会員(音研会・カワイメンバーズ・PTNA・他)	
ご住所	〒	
TEL/FAX	( )	
E-mail		

※お客様が本書面に記載された個人情報は、当社の営業活動(ダイレクトメールの発送など)のために使用致します。法令で定める場合の他、お客様の承諾なしに他の目的には使用致しません。

## ◆第1回「導入編」

「生徒にそろそろペダルを踏ませてみようか」となった時に、どうしたらいいかわからないという先生方は多いのではないかと思います。具体的に何拍目で踏んでどこで離して、ということを教えてくれる講座はあるかもしれませんが、ペダルはOnOffのスイッチではなく、常に調節をし続けて響きをコントロールする魔法のツールです。まずはピアニストが子供向けの曲を弾くとどのような響きになるのかを聞いて頂き、そのペダルを分析しながら子供にもできるペダリングを考えていきます。

## ◆第2回「基本編」

・ペダルは耳で踏むもの ・足にも脱力が必要？ペダルは足のどの部分で踏む？ ・ペダルは譜読みの時から付けるのか？

ペダルは音を伸ばすためのスイッチだと思っている人が多いですが、ペダリング一つでピアノという楽器はオーケストラにもなり歌手にもなってくれます。頭の中で響きがイメージできていないまま、方法だけを学んでも美しい響きを作り出すことは出来ません。ペダルによってどんな響きを作ることができるのかをまず聞いて頂き、そのための様々なテクニックを解説します。

## ◆第3回「応用編」

・ソステヌートペダルの使い方は？ ・バッハではペダルを踏んではいけない？前期古典ではどうなのか？

第2回で解説した基本的なペダルを使い方をさらに発展させて、半ば「裏技」と言ってもいいような様々なペダリングを実演します。ここまで突き詰めたことを教えてくれる講座や解説本は他にないと思います。それは、演奏家たちが出し惜しみしているわけではなく、あまりにも微妙なところで、しかもその時の気分によっても変わるものなので説明が難しいからです。しかし、本当に音楽的に演奏をするために必要なのはこの回で説明をするようなことです。

ピアニストたちは特に教えられるわけでもなく、自然と各自がこのようなレベルのペダリングにたどり着いています。それが理想的な姿ですが、誰にでも可能なわけではないので、様々な例を分析しご説明します。

### ～あなたは生徒の20年後の姿までイメージしながらレッスンしていますか？～

日本のピアノ界のレベルはどんどん低年齢化し、小学生でショパンエチュードが弾けることも珍しくない時代になりました。このままだと日本人が世界を席巻することも夢ではない、なんて思ったら実はその反対で国際的に見ると日本のレベルは落ちているのです。なぜか？

ネットの発達によっていかにすればコンクールで「通る」のか、細かい部分まで分析して研究することが可能となり、昔のようにとにかくカタカタと機械的に指が動くだけでなく、非常に巧みな歌いまわしが出来るコンテストが増えてきました。その結果、子供のコンクールのレベルは飛躍的に上がったのです。しかし、その中のどれだけの子供が本当に心の奥からの衝動で音楽をしているのでしょうか。その中のどれだけの子供が様々なピアニストを、シンフォニーを、またオペラを聴いて豊かな知識とイメージの元に音楽をしているのでしょうか。

非常に熱心な、しかし「とにかく練習をしてコンクールで賞を取りさえすればいい」という、かつてであれば音楽的に弾けなくて中学生くらいで通用しなくなっていた層が、今はもっと先まで行けるようになってしまった結果、本当に突き抜けた音楽が出来る人材が減ってきたのです。

また、何でも調べたいものはウィキペディアを見れば載っている、見たいドラマはいつでも動画で見れる、という世の中で、物の考え方が安易になってしまっているということも言えると思います。「やり方」がネットに山ほど載っているのなら、“そのフレーズには一体どんな意味があるのか”ということを一週間も1ヶ月も考え続けることはしないでしょ。しかし、なんでも知ることができる世の中だからこそ、これからは考えることの出来る人材が必要だという真理になぜ多くの人が気づかないのでしょうか。

このままでは日本の音楽界はダメになってしまう、という強い危機感の元に、このような仰々しい講座の大タイトルを掲げさせていただきました。実際に取り上げるものは今までもやってきたようなペダル講座や曲目解説講座などになると思いますが、この観点を常に持って講座を進めていきたいと思っています。微力ですが、共感してくださる方が少しずつ増えていけば日本の音楽界もいい方向に進むのではないのでしょうか。(松本和将)